# 会社情報／株式情報

Corporate Profile / Stock Information

## 会社概要（2019年12月31日現在）

| | |
|---|---|
| 社名 | 株式会社構造計画研究所 |
| 英文商号 | KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc. |
| 設立年月日 | 1959年5月6日 |
| 資本金 | 1,010百万円 |
| 決算期 | 6月 |
| 上場市場 | 東京証券取引所（JASDAQスタンダード） |
| 事業内容 | エンジニアリングコンサルティング／<br>プロダクツサービス |

## 事業所所在地

| | |
|---|---|
| 本所 | 〒164-0012　東京都中野区本町4-38-13<br>日本ホルスタイン会館内 |
| 本所新館 | 〒164-0011　東京都中野区中央4-5-3 |
| 本所別館 | 〒164-0012　東京都中野区本町6-16-11<br>A.Sビル新中野 4F、5F |
| 中野イノベーションオフィス | 〒164-0001　東京都中野区中野4-10-2<br>中野セントラルパーク サウス2F |
| 名古屋支社 | 〒450-6325　愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1<br>JPタワー名古屋25F |
| 大阪支社 | 〒541-0047　大阪府大阪市中央区淡路町3-6-3<br>御堂筋MTRビル5F |
| 福岡支社 | 〒812-0012　福岡県福岡市博多区<br>博多駅中央街8-1　JRJP博多ビル8F |
| 熊本構造計画研究所 | 〒869-1235<br>熊本県菊池郡大津町室1315 |
| 上海駐在員事務所 | 〒200120　中華人民共和国上海市浦東新区<br>世紀大道100号　上海環球金融中心15F |
| KKE SINGAPORE PTE. LTD. | Level 11, Marina Bay Financial Centre<br>Tower 1, 8 Marina Blvd, Singapore 018981 |

## 株式の状況（2019年12月31日現在）

| | |
|---|---|
| 発行可能株式総数 | 21,624,000株 |
| 発行済株式総数 | 5,500,000株 |
| 株主数 | 2,687名 |

## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 7月1日～翌年6月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年9月 |
| 配当金受領株主確定日 | 3月31日、6月30日、9月30日及び12月31日 |
| 基準日 | 6月30日 |
| 株主名簿管理人<br>特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部<br>東京都府中市日鋼町1-1<br>（郵送先）〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部<br>TEL: 0120-232-711　（通話料無料） |
| 公告の方法 | 電子公告により行う |
| 公告掲載URL | https://www.kke.co.jp（ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。） |

### 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

**https://www.e-kabunushi.com**
アクセスコード **4748**

いいかぶ　検索

空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

e-株主リサーチ

※本アンケートは、株式会社 a2media（エー・ツー・メディア）の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社 a2mediaについての詳細 https://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。　（1809）

●アンケートのお問い合わせ
「e-株主リサーチ事務局」
TEL:03-6779-9487（平日 10:00～17:30）
MAIL:info@e-kabunushi.com

構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

VEGETABLE OIL INK

UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

第62期
# 第2四半期 株主通信
2019年7月1日～
2019年12月31日

*Innovating for a* ***Wise Future***

ヒト・モノ・コトをつなぐエンジニアリングで、
社会をうごかすさまざまな仕組みを創出していきます。

構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

JPX 東証JASDAQ上場
証券コード
4748

# 業績レビュー

Review of Operations

## 第２四半期累計期間の業績

当第2四半期累計期間の当社の業績は、営業及びマーケティング活動が順調に進み、68億12百万円（前年同期は60億19百万円）の受注を獲得しました。前期から繰り越された豊富な受注残に加え上期受注の積上げがあったものの、エンジニアリングコンサルティング案件の一部の売上計上時期が第3四半期会計期間以降に見込まれているため、当第2四半期累計期間の売上高は45億54百万円（前年同期は46億10百万円）となりました。利益面では、上記売上計上時期による影響のほか、積極的な営業活動を展開したことに伴う販売費の増加等により、営業損失は3億1百万円（前年同期は1億65百万円の損失）、経常損失は3億27百万円（前年同期は1億56百万円の損失）、四半期純損失は2億49百万円（前年同期は2億84百万円の損失）となりました。

なお、受注残高につきましては、前期から繰り越された豊富な受注残に加え、営業活動が順調に推移したことにより、85億35百万円（前年同期は68億29百万円）を確保しており、当事業年度末に向けた事業活動は順調に推移しております。

### 売上高（単位：百万円）

### 営業利益（単位：百万円）

### 経常利益（単位：百万円）

### 当期純利益（単位：百万円）

## セグメント別の概況

### エンジニアリングコンサルティング

構造設計コンサルティング業務、住宅メーカ向けシステム開発業務、及び建設・製造業向けシステム開発業務が堅調に推移しました。豊富な受注の積上げがあるものの、第3四半期会計期間以降に売上計上が見込まれている案件が一部含まれていることから、当第2四半期累計期間は前年同期と比較して減収増益となりました。

### プロダクツサービス

米国SendGrid, Inc.のクラウドベースメール配信サービスや米国LockState, Inc.の入退室管理クラウドサービスが順調に販売を拡大し、また設計者向けCAEソフト、粒子法流体解析ソフト、リスクマネジメントプラットフォームの販売が堅調に推移しております。この結果、当第2四半期累計期間は前年同期と比較して増収増益となりました。



# 財務諸表

Financial Data

### 四半期貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| | 前事業年度 (2019年6月30日現在) | 当第2四半期 (2019年12月31日現在) |
|---|---|---|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 4,195 | 4,325 |
| 現金及び預金 | 1,351 | 988 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,415 | 917 |
| 仕掛品 | 702 | 1,480 |
| その他 | 726 | 940 |
| 固定資産 | 8,803 | 9,057 |
| 有形固定資産 | 5,053 | 5,019 |
| 無形固定資産 | 439 | 421 |
| 投資その他の資産 | 3,309 | 3,615 |
| 資産合計 | 12,998 | 13,382 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 3,636 | 5,154 |
| 買掛金 | 238 | 244 |
| 短期借入金 | 10 | 1,210 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 541 | 776 |
| その他 | 2,846 | 2,924 |
| 固定負債 | 3,935 | 3,122 |
| 長期借入金 | 1,386 | 567 |
| 社債 | 350 | 300 |
| 退職給付引当金 | 2,004 | 2,061 |
| 役員退職慰労引当金 | 40 | 40 |
| 株式報酬引当金 | 63 | 76 |
| 資産除去債務 | 56 | 56 |
| その他 | 35 | 21 |
| 負債合計 | 7,572 | 8,277 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 5,435 | 5,108 |
| 資本金 | 1,010 | 1,010 |
| 資本剰余金 | 1,159 | 1,159 |
| 利益剰余金 | 4,117 | 3,519 |
| 自己株式 | △851 | △581 |
| 評価・換算差額等 | △9 | △3 |
| 純資産合計 | 5,426 | 5,104 |
| 負債純資産合計 | 12,998 | 13,382 |

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 四半期損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| | 前第2四半期累計 (2018年7月1日から2018年12月31日まで) | 当第2四半期累計 (2019年7月1日から2019年12月31日まで) |
|---|---|---|
| 売上高 | 4,610 | 4,554 |
| 売上原価 | 2,176 | 2,153 |
| 売上総利益 | 2,433 | 2,400 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,598 | 2,701 |
| 営業損失（△） | △165 | △301 |
| 営業外収益 | 33 | 9 |
| 営業外費用 | 24 | 36 |
| 経常損失（△） | △156 | △327 |
| 特別損失 | 241 | 13 |
| 税引前四半期純損失（△） | △398 | △340 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3 | 4 |
| 法人税等調整額 | △117 | △94 |
| 四半期純損失（△） | △284 | △249 |

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 配当の推移（単位：円）

（注）当社は2017年6月期（第59期）より、四半期配当制度を実施しております。

### 「DOE（株主資本配当率）」

近年注目されている指標に、株主資本に対する配当の割合を示すDOE（株主資本配当率）があります。これは「配当」を「株主資本」で除したもので、株主資本からどの程度の配当を支払っているかを示すものです。東洋経済新報社が発行する「会社四季報2020新春号」の記事では、時価総額100億円～1,000億円未満の企業において、37位にランキングされました（DOE=8.4%）。

# TOPICS

## 「賢慮に満ちた未来社会」を担う所員の育成を支援して

### 服部正奨学基金（服部賞）

当社では毎年、創業者 故 服部正の命日である1月29日に、学術的または業務上著しい成果をあげた所員に対して表彰を行っています。

本年は、構造設計2部の石塚広一 部長が受賞しました。免震・制振プロジェクトをはじめとする数々の構造設計業務を担当・遂行し、産学連携活動の進展に寄与した実績に加え、多くの新技術を活用し、新たなビジネス分野の拡大に貢献した点が評価されました。

また、阿部誠允 取締役会長には特別功労賞が贈られました。コンピュータを活用した構造設計業務の提供に大いに貢献、そして、大手住宅メーカー向け構造設計支援システムの事業を確立し、取締役として経営に参画し当社の発展を長きにわたり支えてきた実績が認められました。

今後とも、社会へより一層貢献することを目指して、所員一人ひとりの成長を支援し、チャレンジする「場」の提供に取り組んでまいります。

右 **特別功労賞**
**取締役会長　阿部 誠允**

KKEでの50年を振り返ると多くの困難もありましたが、故服部正所長との出会いをはじめ、多くの先輩・後輩や顧客の皆さまとの縁に恵まれたおかげで今があると思います。今後も新規事業分野の開拓等を通じ、「知識集約型企業」としてのKKEのさらなる発展を期待しています。

左 **服部賞**
**構造設計2部 部長　石塚 広一**

KKEの場を活用し社内外の人をつなぐことを通じて、Design（思い）& Engineering（思いを実現するための手段）を実践してきました。今後とも若手の育成やプロポーザル活動を積極的に行いながら、KKEの技術を組み合わせ、社全体で社会に価値を提案していきたいと思います。



## 次世代海上コンテナ輸送研究所(AOCTEL)設立

2019年10月1日、構造計画研究所（以下「KKE」）とオーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン株式会社（以下「ONE ジャパン」）は共同で、熊本構造計画研究所内に「次世代海上コンテナ輸送研究所（AOCTEL）」を事業組合として設立しています。KKEでは日本郵船様と共同で2014年からコンテナ船積み付けプラン作成業務を行っていますが、さらなる業務の強化・拡充を目指し、運航の効率化を追求するため、今回設立する運びとなりました。熊本にて、世界を航行するONE全船220隻のうち、約3分の1のコンテナ船を担当しています。

ONEの持つ海技の力とKKEが得意とするITやシミュレーション技術を結集し、日本唯一の陸の海技センターとして世界一高品質かつ高生産性な海運オペレーションの実行を目指し、日本の海上輸送の競争力を高めてまいります。

（補足）ONE：Ocean Network Expressは邦船3社による定期コンテナ船事業を統合し、2017年に設立されています。

担当するコンテナ船（出典：ONE HPより）

AOCTELのある熊本構造計画研究所

## ASEAN CAREER FAIR with Japan 2020 in Singaporeへの参加

当社では、多様な文化や価値観をもつ「人才」の育成が組織の活性化や価値創出につながるとの考えのもと、海外での採用活動にも力を入れています。その一環として、2020年2月にシンガポールで開催された、ASEAN地域の大学で学ぶ学生が多く参加する日本企業の合同説明会「ASEAN CAREER FAIR」に参加しました。

現在では、アジアのみならず、ポーランドやスペイン、南アフリカといった様々な出身の所員が社内に在籍し、外国籍所員は、全所員のうちの約8%を占める48名に達しています。今後とも年齢・国籍・性別に関わらず、異なる価値観をもつ所員とともに多様性に富んだ場づくりを継続し、新たな価値の創出に向けて取り組んでまいります。

2013年より毎年参加している「ASEAN CAREER FAIR」。ASEAN地域の学生を相手に、当社の重視する理念や価値観についてお話ししました。

# 社内の様々なソリューションを組み合わせることで、KKEにしか作れない価値を提供したい

入社以来、防災に関わる仕事に取り組んできた奥野峻也。
2016年からは当社と東京大学生産技術研究所が共同で設置した社会連携研究部門「未来の複雑社会システムのための数理工学」に民間等共同研究員として出向。
これまでにない画期的な洪水予測手法を開発しました。その裏側と今後の展望を語りました。

事業開発部 気象防災ビジネス室　室長
奥野峻也

1987年、愛知県生まれ。東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻卒業後、2012年4月に当社入社。防災・環境部に配属され、津波や風など流体系の業務やその他、防災に関するコンサルティングに従事。2019年8月に本社に戻り現職。

## Q 2016年から東京大学に出向したそうですが、どのような研究をしていたのですか?

この産学共同のプロジェクトは「未来の複雑社会システムの諸問題を解決するため」に発足したのですが、その中にいくつかの研究テーマがありました。私が取り組んだのが「安全・安心な社会構築」。当社が掲げる7つのテーマの中の1つでもあり、私自身も入社以来、防災に関する仕事に取り組んできました。防災に軸足を置きつつ新しい技術を使って社会問題を解決したいと考えていました。

その中で、より具体的なテーマとして選んだのが「洪水予測」です。近年、雨の降り方が激甚化し、各地に甚大な被害をもたらしています。従来の予測システムは構築に数千万円単位の費用がかかるので、地方自治体が簡単に導入できるものではありません。短時間で正確に予測でき、かつ低コストで導入できる予測手法を開発したいという思いを元々持っていました。

とはいえ、最初から洪水予測を目的として研究開発をしていたわけではありません。洪水予測の基盤となる数理モデルを東京大学の先生方と一緒に研究していました。そのモデルを応用して2018年にプロトタイプとしてリリースしたのが洪水予測システム「RiverCast」です。

「RiverCast」の画面

「RiverCast」は、豪雨時の河川水位を30分ごとに6時間先までリアルタイムに予測するシステムです。画期的なのは、過去のデータを活用することで、中小河川に対して従来の予測システムの約10分の1程度の価格でスピーディに導入できる点です。予測結果はWebサイトから閲覧できるほか、水位の上昇が予測された際にはメールで通知できます。自治体やゼネコンに導入いただいているほか、2019年7月からは神奈川県川崎市内において現場実証をしています。

## Q 東京大学と共同で研究に取り組んでいかがでしたか?

様々な知見をお持ちの先生方と議論することができました。また、最短距離でゴールに到達したわけではなく、いろいろな回り道もしましたが、その回り道も結果的には無駄ではなかったと感じています。様々な分野の先生方と議論した中でも、このプロジェクトの主要メンバーの一人である東京大学生産技術研究所の合原一幸先生が専門とされている数理理論に着目しました。この理論が基盤となり、「RiverCast」を開発することができました。

## Q このプロジェクトに参加してよかったと思う点は?

まず、最先端の数理工学の知識を学べたのがよかったと実感しています。また、合原先生が世界的に高名な教授を日本に招待してくださり、講演を聞いたり直接議論をしたり、私の研究に対するフィードバックをいただけたりしました。このようなことができるのは、国際的なプレゼンスが高い合原先生ならではです。そのおかげで様々な知見を得られ、エンジニアとしての成長に繋がりました。

また、「RiverCast」の基盤となる数理理論を合原先生たちと共同で論文にまとめあげ、ネイチャー・パブリッシング・グループの総合科学雑誌「SCIENTIFIC REPORTS」に掲載されました。いろいろと苦労しただけに、掲載された時はとてもうれしかったです。

SCIENTIFIC REPORTS

OPEN Forecasting high-dimensional dynamics exploiting suboptimal embeddings

出典：SCIENTIFIC REPORTS

## Q 今後の目標・展望を教えてください。

究極の目標は自然災害から人を守り、安全・安心な社会を築くこと。直近の目標は「RiverCast」を独立した事業として成立させることです。当社では「学術界と実業界をブリッジする」を理念の一つとして掲げています。今回のプロジェクトも研究して終わりではなく、社会に実装され、そして人の役に立って、初めて成果と言えます。

現在は新規事業開発を行う部署で「RiverCast」をブラッシュアップするための研究開発はもちろん、マーケティングや営業など、これから事業として成長させていくために必要なすべてのことに携わっています。さらに、河川の水位予測にとどまらず、当社の多様なソリューションと連携することで、KKEにしか作れない価値を提供していきたいと考えています。